

科目名	観光社会学			ナンバリング	SOC161	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	小宅幸一	担当教員					

授業の概要	近年、外国人の来日観光客が急増して、日本の観光は大きな脚光を浴びている。観光という概念は、明治時代以降の近代化と大きな関わりのなかで、従来は社会学、地理学、心理学などの各分野の一側面でしか取り扱われることがなく、これらの各分野を包含し、観光を主体に考察されるようになったのは、ごく近年である。このようななか、一歩踏み込んで、観光を社会との関係で捉えること、つまり近代社会の諸現象やその変容などを観光を通して捉えることを習得することを目的とする。授業の概要としては、人がどのように余暇を生み出し、このなかで観光という時間を生み出し、次いで観光が産業として確立して、地域に活性化をもたらしたか、さらには地域社会のなかでどのように発展させることができるかについて、解説する。						
到達目標	1.「観光」の概念を理解し、他の社会学や地理学などの関係性、さらに「観光社会学」の本質を、説明することができる。 2.地域の歴史過程なかで、観光はどのように捉えられ、発展を遂げてきたのかを、説明することができる。 3.「観光社会学」の果たす役割や機能を理解し、将来にどのように活用させることができるのか、説明することができる。 4. 事例として、いわき市などにおける観光の変容を通じて、観光の課題や将来像を、予測説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	「観光社会学」は、経済学や心理学、地域の歴史、人づくりなど、さまざまなカテゴリと関わりを持っている。すべてに精通することは難しいが、多角的に物事を考える姿勢を持つことが大切になる。そのためには、一挙にはできないので、少しずつ自分の興味や身近にある事象を取り込んで、広い知識を得る努力をたやさず、学習に取り組むことが必要となる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①観光に関するさまざまなキーワードを理解することができる。 ②観光や観光社会学がさまざまな要素で成り立っていることを理解できる。 ③観光者と観光地の双方で出現する事象を説明できる。	①自分の生活空間(いわき市出身はいわき市について、他地区出身は自分の出身地および周辺について)のなかで、観光がどのように関わっているかを説明できる。 ②観光客を多く集めるための受入態勢の充実に向け、何をすべきか、説明できる。 ③観光の変遷や発展を歴史過程のなかで説明できる。 ④観光発展の理想形や課題となり得る環境変化、地域住民との関わりを説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○						30%
宿題・授業外レポート	○						10%
授業態度・授業への参加							
最終課題レポート	○	○			○		60%
出席			○	○			加点はしない。欠席は減点。

課題、評価のフィードバック	1.毎回の授業内レポートについては、次授業の冒頭で解説する。 2.最終レポートの評価については、学生からの開示要請があった場合は、いつでも開示できるよう準備しておく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	「観光」の語源、原点。「観光」の定義の変遷	「観光」という言葉は何に由来して生まれ、一般的に使われるようになったかを理解し、併せて観光の定義をさまざまな角度から解説する。	
	第2回	観光と旅行、レクリエーション、リゾートとの関係性	「観光」と「旅行」、「レクリエーション」「リゾート」との関係、さらには「観光」が及ぼす、さまざまな影響その範囲、消費とのかかわりなどについて解説する。	
	第3回	観光における対象、資源、施設などとの関係性	「観光学」の前提となるさまざまな観光に関する考え方の基となる対象、資源、施設などの関わりを探ることによって、観光がさまざまな科学と関わりを持っていることを解説する。	
	第4回	観光学、観光社会学の成立と展開	社会学から派生した「観光社会学」。その背景や成り立ちなど、さらには経済学や地域学、社会学などさまざまな学問と関わりのなかで、観光社会学が確立されていく過程を解説する。	
	第5回	観光の真正をめぐる視点と本質	観光客の多寡に関して真正かどうかをめぐる考え方を通して、観光とは何かを考え、さらにツーリストは何をめざして観光に向うのかについて解説する。	
	第6回	交通システムの進化と観光	観光にとって、移動に要する時間短縮は重要な課題となる。時間短縮のための交通手段は、社会変化とともにどのように進化してきたのかについて解説する。	
	第7回	新たに創りだされる観光	従来型の観光地は、古刹や寺社仏閣、聖地などに代表されたが、近代に入り、新たな公園や都市娯楽の延長としての、新たなテーマ掲げた観光地が脚光を浴びるようになったことについて解説する。	
	第8回	情報システムの発展と観光	観光に出かけるに際し、行先地の予備知識を得ることは、大きな要素である。観光の満足度を最大限に得るうえでも情報は必要となる。観光における情報の役割をさまざまな角度から解説する。	
	第9回	観光産業の特性と経済的視点	観光に必要な種々の財・サービスを需要する観光者と、それらを供給する主体(民間企業、行政、非営利組織など)の経済的要素を理解し、社会的な要素を加えて解説する。	
	第10回	近年、日本が脚光を浴びる観光の背景	近年、日本を訪れる外国人は急増している。この背景を探るとともに、受け入れ側の態勢を今後どのように整えていくことが必要となるのかについて解説する。	
	第11回	観光いわきと海洋の利活用	いわき市は観光と深い関わりを持ち、特に海洋を利活用してきた。そのいわき市の事例を挙げ、海洋に関わる観光について解説する。	
	第12回	観光いわきとヘリテージ・ツーリズム	「ヘリテージ・ツーリズム」の対象として、いわき市は少なからず関わりを持っている。観光の一つの要素であるこのツーリズムや展望や課題などについて、いわき市の歴史や社会の変化と関わって解説する。	
	第13回	観光いわきと温泉資源	いわき市にとって、温泉は大きな観光資源である。温泉資源はどのように扱われ、変化していったのか、ライバルの経済関係にあった石炭産業との関わりをまじえて解説する。	
	第14回	観光いわきの発展と課題	観光いわきは、どのような経過をたどり、形成され、発展し、社会変化とどのように関わったのか、さらに東日本大震災を経て、今後、何が問われることになるのか、を解説する。	
	第15回	今後の観光のあり方と地域活性化	観光の発展は地域経済の活性化と大きく関わってくる。それは地域がどのような観光要素を創り出せるか、観光需要とマッチするのかなど、観光のあり方が大きく変わってきていることを解説する。	
		試験	試験は実施しない。ただし、15回の授業終了後の翌週に、授業時間内で課題レポート作成を実施(あらかじめテーマ告知)する。自筆で自分の言語でまとめる。	
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。毎回確認レポート(小レポート)を実施する。 随時、時間外レポートを実施する。		
授業外学習の指示		事前に、次回授業内容の資料を配布するので、あらかじめ内容を把握しておくこと。また、日頃から新聞やテレビ、ネット情報を通じて、観光やこれに関する事柄に関心を持つこと。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書を使用しない。毎回、各参考書の内容をまとめたプリントを配布する。
参考書	『観光学入門』(古今書院、溝尾良隆著、ISBN4-7722-3032-7)、『観光社会学』(明石書店、須藤廣・遠藤英樹著、ISBN978- 4-7503-2118-9)、『観光と地域社会』(ミネルヴァ書房、吉田春生著、ISBN4-623-04537-4)
参考URLなど	
その他	授業の合間に、随時観光社会学に関連する知識や事例、動向などを、プリントで解説する。